

対象プロジェクト名	地域再生支援プロジェクト
個別プロジェクト名	東京都新宿区
資料名	東京都新宿区歌舞伎町再生支援
年度	2009年度
年月日	2009. 9. 23 2009. 10. 31

新宿区「東新宿WAの学校」プロジェクト

プロジェクト主体
東洋大学経済学研究科公民連携専攻
清水ゼミ

イベント内容

1. 街ナカ茶会 (2009年9月23日)
2. まちづくり落語会 (2009年10月31日)

報告書内容

1. 東新宿WAの学校とは
2. 「街ナカ茶会」チラシ、報告書
3. 「まちづくり落語会」企画書、チラシ、報告書

あの…歌舞伎町の狭間的空間～副都心線東新宿エリアを掘り起こす

「東新宿WAの学校」プロジェクト

1 わたしたちの活動について

わたしたち、東洋大学大学院経済学研究科公民連携専攻 (<http://www.pppschoo1.jp/>) 清水ゼミでは、2008年度から歌舞伎町まちづくりの研究に取り組んでいます。

2 東新宿エリアの発見

歌舞伎町のまち歩きをするうちに、歌舞伎町二丁目の鬼王神社周辺（副都心線東新宿駅周辺）エリアは、ホテル街と大規模再開発事業予定地に囲まれた、狭間的空間であることに気が付きました。わたしたちは、この地域が歌舞伎町まちづくりの起爆剤となるのでは・・・と考え、まちづくりに取り組んでいます。

3 「東新宿WAの学校」とは

「WA」にはみつつの意味を込めています。

ひとつめ・・・輪（人のつながり） ふたつめ・・・ワ！（感動・驚き）

みつつめ・・・和（日本文化）

東新宿エリアにふれ、まちづくりについて考えていく「場」を「東新宿WAの学校」と名づけます。

まちの資源を掘り起こし、まちづくりにつなげていくためには、地域の特性や歴史的観点からのアプローチと、まちを構成する人をつなげていくことが不可欠であると考えています。そこで、東新宿エリアの歴史的・文化的資源を外に発信し、まちづくりに活かすために、地域文化とも関わりのある茶道や大衆文化・娯楽としての落語など日本の伝統文化を絡めたイベントを企画していくことにしました。

このイベントを通して、まちづくりに関わるたくさんの人と出会い、つながる輪を広げていきたいと思えます。ぜひ、多様な「WA」のなかで「歌舞伎町の横顔」に触れ、たくさんの方を感じてください。

4 イベントの予定

1 四谷ひろばで気軽に「街ナカ茶会」 ※9/23 終了

～茶道を通じてまちづくりに親しむ、プロジェクトのキックオフイベント

②鬼王神社で落語を楽しみ、まちづくりを考える ※10/31 開催予定

～まち歩きや落語を通じて東新宿エリアを知る

③その後

これから出会う方々と一緒にその後のイベントを企画していきたいと思えます。

正直を重ねて、信用を得る

この不確かで不安な時代に、どう進むべきかいつも迷います。そんな時、老人のセリフがよみがえります。

「米は人間が作るのではない。土が作るのだ。」「私達は本物の米を作りたいのだ。」

高齢化、過疎化、格差、限界集落、過密。分断されたこの時代に、正直を重ね、お互いを信じ、支え合って生きよう。

9月23日は、この映画と四谷ひろばの催しを通して、生きる勇気が湧いてくる日にしたいのです。どうぞお出かけ下さい。

ムービー＆ワイワイ広場

12時～5時まで広場にて産直販売!!

緑提灯の会

緑提灯は、食料自給率50%を目指し、国産食材50%以上使用している飲食店の連携した運動です。

モットーは「正直を重ねて、信用を得る」。



産直野菜・特産物販売コーナー

- 森のしずく村市場・ひのはら（東京都檜原村）
- 美土里野菜（栃木県茂木町）
- つくばアグリサイエンス（茨城県つくば市）



美味しいお米、野菜、果物が育てられています。この季節の選りすぐりの品々を、産地直送でお届けします。

NPO 緑の大地会

八王子の里山を拠点とし、地球環境の保全などを目的としています。

今回地元の素材をメンバーのシェフが心をこめて作ったスイーツと、里山保全活動の一つとして「どんぐりキューブ」を販売します。



新宿野菜畑プロジェクト



再び「野菜の生産地・新宿」を目指そう

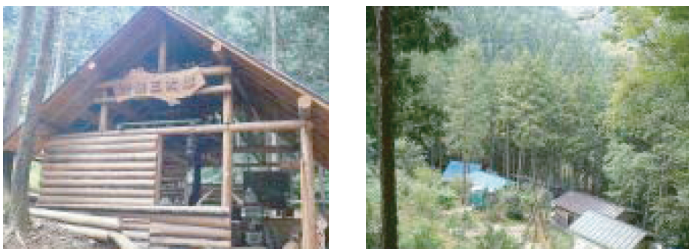
東洋大大学院 四谷ひろばで気軽に『街ナカ茶会』

「東新宿WA（=和・輪・ワ!）の学校」プロジェクト実行委員会



八王子の炭焼きグループ

DAIGO エコロジー村は、1996年に八王子恩方醍醐において、江戸時代、大奥で大変重宝がされていた案下炭の再現を目的に有志により始まった炭焼活動が原点です。



NPO・CCAA・アートプラザ



四谷ひろばを拠点に、幅広い市民の芸術活動を推進している

上映会場のご案内



●東京メトロ丸ノ内線「四谷三丁目」駅
2番出口より徒歩約5分

2009年12月12日

東新宿 WA の学校 「街ナカ茶会」 報告

村上 眞紀

- 1 目的・趣旨
- 2 経緯
- 3 スケジュール
- 4 実施状況
- 5 準備・運営上の問題点および今後の課題

1 目的・趣旨

- ① 具体的なプロジェクトの実践：
2008年度、新宿区長への清水ゼミの各ゼミ生による提案・プレゼンテーションを実施。今年度は、具体的なプロジェクトとして「実践する」ことで、経験・ノウハウ・地域の人々とのつながりを深めることを目的とした。
- ② キックオフイベントとしての位置づけ
「東新宿 WA の学校」（参考資料）の最初のプロジェクトとして、新宿のまちづくりに積極的に関わる団体や、地域の住民の方々の方々の集うイベント“ムービー&わいわい広場”に参加。一服できるくつろぎの場を提供しながら、地域でのネットワークづくりに関わり、今後の活動の広がりにつなげる。

2 経緯

- ① 2008年度、清水ゼミ各ゼミ生により、新宿区長へ新宿歌舞伎町活性化のための提案。
- ② 2009年度は、①に基づき、東新宿発信・拠点の落語や茶道などの和文化によるプロジェクトの実現を試みることにした。
- ③ 根本区議へのヒアリングおよび「降りてゆく生き方」（参考資料）の映画プレ上映イベントにて、2009年9月23日の四谷ひろばでの上映会にて茶会（野点）を開催してはという案が浮上した。
- ④ ゼミとして、「東新宿 WA の学校」構想を立ち上げ、そのプレイベントとして③への参加を決定した。

3 スケジュール 2009年4月—9月

- 4月~5月 プロジェクト内容・ヒアリング先の検討
- 6月13日 益田屋（茶事・茶道具店）ヒアリング
百人町の歴史・国内外茶道文化普及活動・ハイジアでの茶会の可能性・回遊できるまちづくり・多様な文化の組み合わせ・茶事教室案内・
- 24日 根本二郎 新宿区議 ヒアリング
まちづくりは村づくり・結の心・自給自足「降りてゆく生き方」・歌舞伎町ライブミュージック・緑提灯（国産素材50%以上）檜原村での植林・交流・みどりのカーテン花園神社でライブミュージック・村の物産展・野点などの共同開催の可能性
- 26日 （社）日本芸能実演家団体協議会 大和滋 文化振興部長 ヒアリング
芸能花伝舎の活動について：芸術家の家守的存在の公益法人・廃校舎を新宿から随意契約で賃借。区と文化振興の協定を結ぶ。著作権ならぬ上演権（収入源）を守る。落語協会などに空き教室を賃貸、稽古場なども貸出。地域文化振興のためのワークショップ主催。劇場法を国に提言。
- 同日 宝塚造形芸術大学 事務長 今里光昭氏 ヒアリング
メディアコンテンツ専攻であり、特定の映像、マンガ、CGなどの技術専攻ではない。将来、コンテンツをプロデュースできる人材を育成。伝統、歴史、哲学などアナログとの共生。看護学部が加わり宝塚大学となる予定。華道の福祉分野での効果に関する修士論文もあり。
- 29日 下村治生 新宿区議 ヒアリング
- 7月1日 「降りてゆく生き方」プレ上映会参加
- 9日 菅野 大久保特別出張所 所長 ヒアリング
鉄砲百人組とつつじ・大久保地区の在日外国人・多文化共生の課題・地域でのこども見守り活動・町会・自治体の活動
- 15日 馬喰町 CET（Central East Tokyo）ヒアリングツアー
- 27日 茶会運営打ち合わせ（白山・非公式）
- 29日 茶会運営打ち合わせ（大手町サテライト）
- 8月3日 四谷ひろば下見（野点の可能性・水回り）・益田さん打ち合わせ
- 同日 Ren-Base にて打ち合わせ（企画書練り直し）
- 4日 落語会関連（小はん師匠の湯島天神寄席見学）
- 10日 Ren-Base にて打ち合わせ
- 21日 Ren-Base にて打ち合わせ
- 24日 四谷ひろば下見（多世代交流ルームにて茶会場レイアウト）
- 同日 新宿区衛生課届け出
- 同日 TMO 石川さんヒアリング（「新宿文化絵図」編集責任者でもある）

- 9月3日 吉本興業ヒアリング：「笑い」と地域活性化
同日 Ren-Base 打ち合わせ（清水先生と落語会・茶会について）
6日 益田屋茶事教室・茶会用備品買出し
8日 「降りてゆく生き方」上映会準備のための打ち合わせ
9日 地域活性交流会（新宿区長に茶会案内）
15日 鬼王神社挨拶・落語会打ち合わせ・茶会確認事項チェック
22日 四谷ひろば 茶会用品搬入および最終確認
23日 当日
25日 益田屋 茶道具返却
10月3日 精算・考察

4 実施状況

開催時間 9月23日（火・祝）12:00～16:00（準備 10:00～ 片付け終了 18:00）

来場者 合計 30名

（12:00～4名・13:00～5名・14:00～6名・15:00～12名・16:00～3名）

売上 15,000円（@500円×30名）

当日スタッフ 合計 13名

ゼミ生4名・修了生2名・院生3名・茶道指導1名・茶道補佐3名

5 準備・運営上の問題点および今後の課題

<目標達成の観点から>

今回の ① 具体的なプロジェクトの実践 ②「東新宿 WA の学校」キックオフイベントとしての目標は達成した。

しかし、「実践」により何を得るか、つまり、ネットワーク（輪）づくりに結び付けるためのプロセスの詰めを欠き、以下課題が残った。

① イベント内容の検討： 多方面からの入念な検討と実行力のバランス

- ・ 茶会運営自体がかなり複雑な上に未経験者が多く、今回の場合、準備・運営・スケジュール的にもかなり難しい面があった。
- ・ 簡易的な野点が今回の上映会の趣旨には適切であったが、設営・動線・雨天対応を考えると四谷ひろばが適当。
- ・ 四谷ひろばの通常の利用（フリー休憩スペースである場所で、柱時計が静かな目玉）に反し、有料で、しかも、来場者の多くにはなじみのない茶会スペースにしたため、それなりの工夫が必要だった。柱時計はレイアウトの関係で水屋内になり公開できなかったが、後半、希望者には水屋で見学してもらった。
- ・ 茶券500円の価格設定が、今回の会場・状況に合っておらず、300円、子ども100

円が妥当だった。

- ・ イベントのコンセプトに合った開催場所・連携団体の検討も今後の課題。
- ・ 茶会スペースでの民謡の発表の提案もあったが、調整の時間がなかった。
- ・ 通常の流派の茶会の既成概念にはない、珈琲店やバーなどのようにカウンターで会話を楽しみながら呈茶する方式（水屋でスタッフに、また、点前席で区長やスタッフにこの方式で今回呈茶）が新鮮で、今後の可能性も高い。

② パートナーシップ： 外部団体との連携・理解・信頼関係構築

- ・ スタッフ内に茶会主催経験者がなく、茶道経験者も限られる中、地元の協力者にこだわり茶道協力を地元企業に依頼。本イベント内容が無料での呈茶でないため、全面的な協力は受けられなくなり、当日(12:00~16:00)の限定的な支援と多少の道具の貸出協力を得る。当日、15:00で退出。茶碗返却では、ひびの指摘。（拝借を断ったものの、破損してもいいものなのでと貸し出しを受け入れたもの）リスクとリターンの設計・信頼関係の構築が欠けていた。
- ・ 新宿区内の大学茶道部協力も検討事項であったが、大学の夏休み中でもあり、新たに外部の団体との交渉は、茶会内容の詰めも含め、今回はスケジュール的に困難とみられた。
- ・ その他関連団体との連携・団体や会場についての理解が必要。今回の場合、映画上映団体・参加団体（物産展）・来場者・四谷ひろば・時計。

③ 集客・PR： イベントの目的・関連事項の分析の必要性

- ・ 映画上映・物産展の来場者のニーズとのミスマッチ、さらに、他企画の集客（約 600名）に頼ることで、独自の集客努力を全く行わなかった。（従来の茶会運営では来場客数に対し水屋の対応が追い付かないという固定概念もあった）。
- ・ 当日の会場での積極的な PR も必要だった。（奥まった場所で、誰が何をやっているかわかりにくかった）途中から、抹茶と菓子、和装のスタッフによる PR を行ったのはよかった。
- ・ ポスターも絵手紙風でわかりやすいものがよかった。（ポスター作成教室の案もあったが今回は行わなかった。）
- ・ マーケティングの発想の必要性： 今後は、企画段階で、例えば他イベントの入場券の半券を茶券とするなど、来場者の属性と企業広告を結びつけることを考えるのも一案。

④ 企画・打ち合わせ： マクロ・ミクロアプローチのバランス

- ・ 水平的で合議制による議論、メールでのやり取りにより、熟考できる反面、意思決定に時間がかかる。
- ・ 複数の議事の検討： 茶会の準備・運営計画・企画書の練り直し・落語会の打ち合わせ・落語会の案内・アンケート実施内容の検討などが同時進行する場面があったが、分担、

承認などの方法が確立できるとよい。

- ・ 当日までのアクションリストを大まかに検討し、大体のスケジュールを組むとよい。
- ・ メンバー内でのタスク分担。（当初は各自の得意分野が不明で難しかった）
- ・ 打ち合わせの議事録・次のアクションリストの確認、担当と期日明記が可能な場合もあったが、毎回残せるとよい。
- ・ 外部との打ち合わせ・ヒアリング・下見の複数での参加により、情報の非対称性が解消される。企画の早い段階で実行できると理想的。

⑤ 茶道の観点からの示唆

- ・ 「不立文字（ふりゅうもんじ）」——禅宗の教義を表す言葉で、言葉による教義の伝達のほかに、体験によって伝えるものこそ真髄であるという意味——の実践への第一歩。
- ・ 「一座建立（いちざこんりゅう）」——主客に一体感を生ずるほど充実した茶会——の発想が、他の形態であっても、地域のまちづくりのネットワークにおいて重要。

⑥ 来場者の声など（受付にて）：来場者ニーズの把握の必要性

- ・ 作法が分からないがよいか（問題ない旨説明後安心して入室）
- ・ コーヒーが飲みたい（複数） コーヒーなど喫茶店として運営しては
- ・ 柱時計が見たい（複数）
- ・ 独りでははいりづらい。
- ・ 休憩のために入室したい。（了承し、喜んで休憩された）
休憩スペース的意義をもたせることも有用
- ・ 外でのイベントとの連携(物産展で販売しているものを食するスペースとしての利用)
- ・ 子ども連れが多く、休憩スペースの提供が望まれた。

⑦ 応援スタッフ：状況をよく理解した強力な応援者

- ・ 院生や修了生、身近な応援スタッフの多大な協力が得られ、準備・運営・リスク管理・片付けなどがスムーズに行われた。
- ・ 準備段階からの写真撮影・アルバム作成のおかげで充実した記録ができた。
- ・ 身近な茶道経験応援スタッフとの詳細な打ち合わせが可能だった。

< 参考資料 >

- ・ 「東新宿 WA の学校」企画書
- ・ 「降りてゆく生き方」上映会ちらし
- ・ 茶会事前分担表・会場レイアウト・当日の流れ・当日役割分担表・茶会説明文
- ・ 当日配布資料：「茶会記」「お茶の召し上がり方」
- ・ リスクマネジメントマニュアル

平成 21 年 9 月 24 日

「東新宿WAの学校」プロジェクト
および「まち歩きと鬼王神社落語会」企画書

東洋大学大学院経済学研究科
公民連携専攻 清水ゼミ

私たち、東洋大学大学院経済学研究科公民連携専攻*清水ゼミは、2008 年から歌舞伎町のまちづくりを研究しており、昨年度は「アートでまちづくり」、「歩きやすいまちづくり」などの研究成果を新宿区長に提案しました。今年度はエリアを絞り、区役所通りと明治通りに挟まれた鬼王神社周辺（歌舞伎町二丁目）に焦点を当て、「まち・人・資源」の掘起こしにより、地域の価値創出を目指すプロジェクトを立ち上げました。現在は、ホテル街と大規模再開発事業予定地に囲まれた狭間的空間になっていますが、**東新宿駅周辺の発展とともに、新しい歌舞伎町の拠点になり得ると確信したからです。**

プロジェクトは、その名も「東新宿WAの学校」。「WA」には「輪」（人の繋がり）、「ワッ！」（感動や驚き）、「和」（日本文化）、の意味を込めました。東新宿エリアの歴史的、文化的資源を外に発信しつつ、まちづくりに活かして行くためには、まずは**外部から人を呼び込み、まちを構成する人と繋げて行くことが不可欠です。**人と人の交わりを創るには、日本の伝統芸能に一役買って貰うのがふさわしいと考えました。一口に伝統芸能と言っても落語、講談、漫談、漫才、義太夫、新内・・・いろいろあります。いつの日か、各種の伝統芸能が身近で楽しめるまち・東新宿が誕生するのを夢見て、私たちは「東新宿WAの学校」を開催して行きたいと思っています。

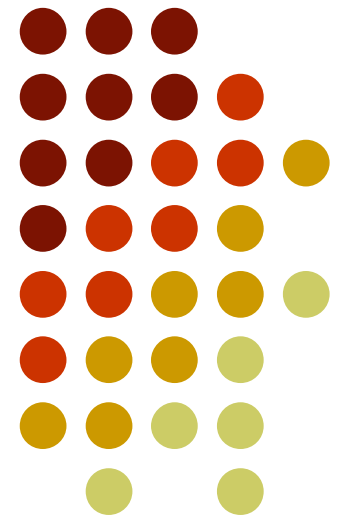
第 1 回目「東新宿WAの学校」は 10 月 31 日に、鬼王神社において落語会を開催します。これはただ単に、古典落語を聞いて楽しむだけの会ではありません。**参加者には落語が始まる前に、東新宿を三々五々散策して、まちの空気を肌で味わって貰います。その上で落語を楽しみ、打ち解け合った後に、まちづくりについて落語家も含めて参加者同士で語り合おうという趣向です。**

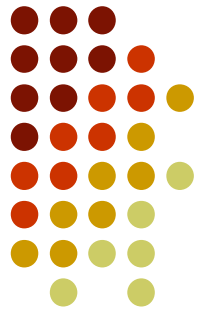
「東新宿WAの学校」は公園でも、道端でも開催することは出来ませんが、私たちはまずスタートとして、350 年以上も前から、この地域を見守り続けて来られた鬼王神社がふさわしいと考えました。無償でご提供頂きましたことに心から感謝申し上げます。

* 公民連携 (PPP : Public Private Partnership) とは、さまざまな公的プロジェクトや公的サービスを官と民の役割分担により、効率よく実現し、社会的な費用対効果を最大化しようとする試み

2009年10月31日開催
「まちづくり落語会」報告
ただし・・・参加者目線

池田 愛美





集客について

- もう少し情報があったら、申し易かったのではないかと感じました。

<あったら良かったと思う情報>

1. 対象者情報:
 - ①対象年齢
 - ②地元の人
 - ③一部のみの参加希望可否
2. 目的情報:
 - ①落語の演目や師匠の紹介
 - ②まちあるきのルートや見所
 - ③「まちづくり」をどのポイントで考えるか？
3. 場所情報:
 - ①最寄り駅と案内地図(バリアフリールート案内)
 - ②駐車場の有無
 - ③落語会場の設備(トイレや座布団、寒さ)
4. お茶・お菓子の提供情報:
 - ①アレルギー可能性のため、提供内容詳細
5. 申込方法:

メールのほか、FAX・電話があると良かった
6. 雨天・荒天時の案内情報:
7. 当日連絡先情報:

第1回 東新宿WAの学校

落語を楽しみ、 まちづくりを考えよう

350年以上の間、歌舞伎町を見守ってきた鬼王神社。その宮司さんと一緒にまち歩きをし、神社で落語を聞き、まちづくりについて語り合しましょう。

日程 10月31日(土)

14:40 社務所にて受付開始
15:00 大久保宮司と一緒に東新宿のまち歩き(希望者のみ)
16:00 落語 柳家小はん
17:00 まちづくりトーク(お茶・お菓子付)
18:00 終了予定

きおう

会場 鬼王神社(新宿区歌舞伎町2-17-5)

きとせん

木戸銭(料金) 1000円

定員 30名

◆申込方法

10/16(金)までに、メールにてお申し込みください。タイトルを「まちづくり落語会申込」とし、本文に参加希望者全員の①お名前②住所③電話番号④まち歩き参加希望の有無⑤代表者の当日連絡先(携帯など)をご記載の上、wanogakkou@yahoo.co.jpまでお送りください。

※頂いた個人情報、「第1回東新宿WAの学校」のイベント開催の目的以外には、一切使用いたしません。(①～③は行事保険加入のため使用します。)

※申込先着順となりますので、予めご了承ください。

◆お問い合わせ

東新宿WAの学校プロジェクト事務局 担当 平井
携帯 080-3414-6324(ただし月曜～金曜の9時～17時)



集客チラシを作り変えてみました



第1回 新宿WAGの学校

落語を楽しみ、まちづくりを考えよう

350年以上もの間、歌舞伎町を見守って存在虎王神社。毎日歌舞伎町を見つめる皆さんと一緒に待ちまちを創り、歌舞伎町の新たな一面を一緒に発見しませんか？その神社で落語を聴き、まちづくりに学ぶ機会！中しゅう、歌舞伎町在住の方、歌舞伎町初心者の方、年齢も問いません、まちづくりに関心がある方は、お気軽にお申し込みください。

日時:10月31日(土) 雨天決行

会場:虎王神社 新宿区歌舞伎町2-17-5
最寄り駅:大江戸線「新新宿」X出口徒歩3分



フォーラム
14:40 受付開始
15:00 虎王神社・大久保宮司と待ちまち
16:00 落語(林剛(さん)・浜田(XX))
17:00 林剛(お茶・お菓子)
17:10 まちづくりトーク
18:00 終了

落語家:林剛

フォーラム...
当日の演目紹介



木戸銭(料金) 1,000円
途中参加・退場の場合も、料金は変わりませんので、ご了承ください

定員:30名(先着順)

申込締切:10月16日(金)

申込方法:メール又は FAXにてお申込下さい。
メール:XXXXXX@XXXXXX, FAX:XX-XXXX-XXXX
裏面に申込用紙とっております。ご利用下さい。

注意事項
・待ちまちは歌舞伎町・小泉八雲公園等の付近です。必ず必ず服装を準拠して下さい。
・お茶とお菓子・まちづくりトーク会場は別途お申し込みを、椅子の準備が必要な方は、申込の際にご連絡下さい。

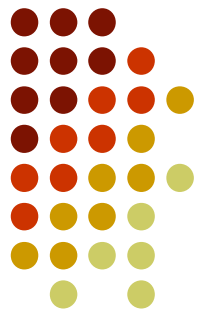
当日連絡先:090-XXXX-XXXX(担当:XX)

運営事務局:東京大学大学街.....

・情報量が多くなり、見易さとの兼ね合いを考慮する必要があるが、ターゲットが整理できれば、情報量は調整できる。

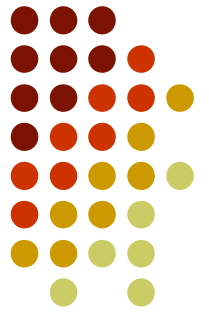
例)大学生であれば、Webで検索するのが常なので、地図の掲載は必要ない。

運営について、気になったこと



1. 当日の時間配分がうまく行かなかったようだったので、詳細なタイムスケジュール・会場レイアウト、担当の割り振りを事前に行い、運営側で共有できればよかった。(会場下見も含む)
2. 現地の神社入り口から、受付・会場入り口までの案内板があるとよかった。
3. 年齢層が高い方の参加が多いことが想定されていたので、もう少し椅子の数があるとよかった。
4. 「まちあるき」のルートが分からず、足の悪い参加者や化粧室に行きたい方が途中で戻ってきた。
ルートや歩き時間、ポイント場所を、事前に地図に記載し、無理なく楽しんで頂けるような工夫があってもよかった。
5. 配布物がとても多く、2種類の封筒があったので、「まちあるき用」や「まちづくりトーク用」などと封筒に記載したり、イベント内で使用する資料は番号や印を付け、説明時に分かりやすくするとよかった。
6. 最初に、会場施設(タバコを吸う場所や、洗面所等)、プログラムの案内があるとよかった。
7. 宮司さんが最初に準備をして頂いていたが、控え室や事前に使う予定の備品が使用できないなど、想定外のことも多かったようなので、会場選定や準備がもう少し主体的にできるとよかった。
8. プログラム終了後に懇親会を予定していたが、片付けの時間が入っておらず、懇親会でゲストの皆さんを待たせてしまっていたようだったので、片付け組と役割分担するとよかった。
9. 途中退席される方には、お茶・お菓子の提供ができなかったなので、別に持ち帰り頂けるようにしておくとうよかった。
10. 配布物が大きな封筒2つとお茶があったので、手提げ袋などを用意しておくとう便利だった。
11. 最後に会場の掃除をしなかったが、私が今まで外部会場を使用した際には全て掃除機を持ち込んで掃除をしてから退出していたのが常だったので、気になった。

「まちづくりトーク」の内容集(1/3)



ファシリテーター：清水先生

Q: 今回のようなイベントを開催させて頂きましたが、どのような感想を持ちましたか？

A: どのような目的なのか分からなくて、この地に住む人のためか、企業のためか、ターゲットが決まっていないと、イベントの良し悪しも話し難い(地元企業の方)

A: 神社で落語を聞くということについて、現代ではないような所に来た感覚。新宿と言っても馴染みがないが、イメージが変わった(歌舞伎町のイメージだったので)(早稲田大学学生)

A: 韓国街があったり、多様化している。知ったことを伝えたり、交流の中でできかけが出来、活気を作るためには素晴らしいイベントだと思った。(早稲田大学学生)

A: どうしてここに神社が?!と思うような立地にあった。(早稲田大学学生)

A: 鬼王神社も大きかったが、区画整理で小さくなった。戦前は大きく富んでいたが、戦後は財政的にも大変だった(宮司様)

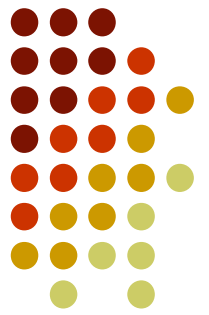
A: 鬼王神社という神社があることを、初めて知った(女性)

A: 新宿歌舞伎町のイメージが固定されているのは、メディアの責任もあると思うが、このように歴史・まちづくりの動きがあることが分かり新鮮(メディア女性)

A: 新宿は夜の街とっていて、実際夜にしか来たことがなかったが、日中の街歩きで東京文化を感じた。今まで東京の文化といえば、根津などを思い浮かべていたが、新宿にもこのような文化的な場所があったのかと思った。

神社という場所や、落語には「力」がある。この空間・時間はとても良い。(清水先生)

「まちづくりトーク」の内容集(2/3)



Q: 地元の方も参加頂いていますが、昔から様変わりしたでしょうか？

A: 様変わりしています。今は外国人の方が多くなって、支えてもらっている気分です。日本人だけでは難しい状態です。

A: 昭和40年から住んでいる。「まちづくりトーク」にピンとこなかったが、若い人がこんなに沢山来ていて驚いた。

昔は静かで住みやすい土地だった。これから発展するかと思いきや、中国・韓国の人や店が多くなり、地元の人が相続時に土地を売ると一等地は外国人が買い占めてしまう。どんどん歯が抜けるように日本人が少なくなった。お神輿の担ぎ手も少なくなった。

これからのまちづくりに不安を感じる。どうしたらよいか、知恵が欲しい。

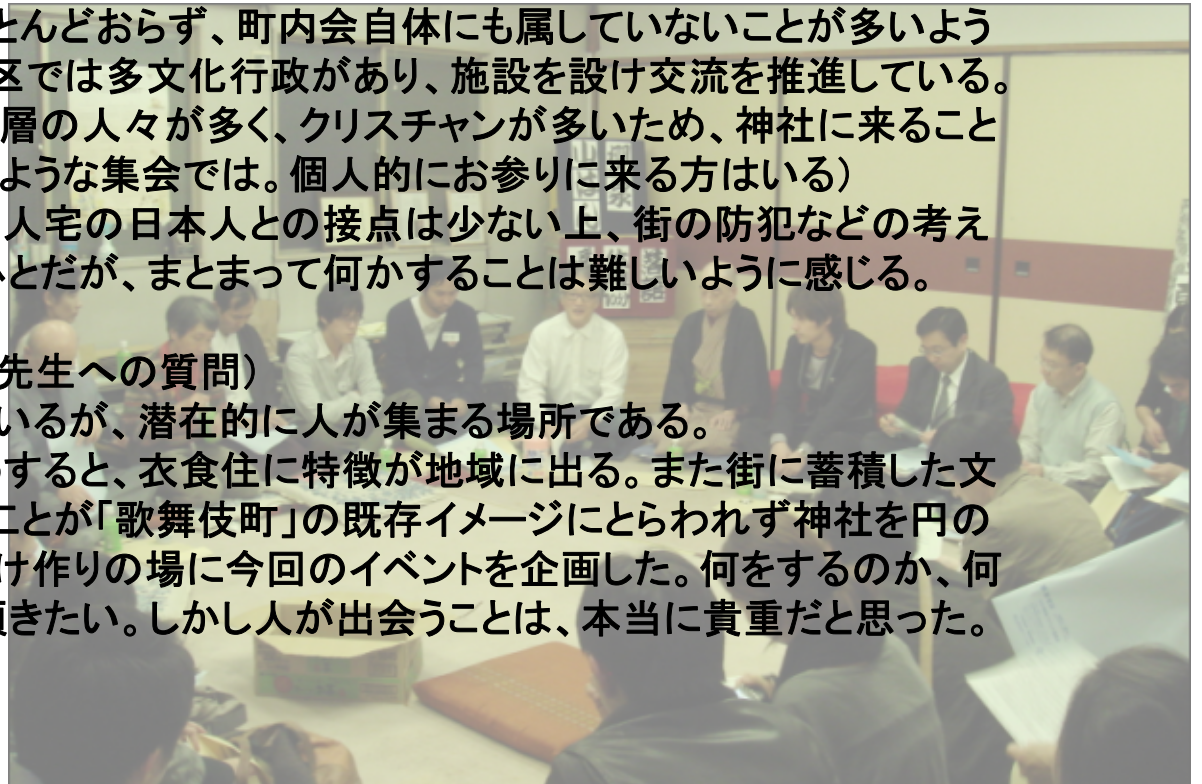
A: この近隣の町内会では、役員に外国人はほとんどおらず、町内会自体にも属していないことが多いようだ。そのため外国人との接点が余りない。新宿区では多文化行政があり、施設を設け交流を推進している。また、在日韓国人は反日教育を強く受けた年齢層の人々が多く、クリスチャンが多いため、神社に来ることに抵抗がある人が多いように感じる。(特にこのような集会では。個人的にお参りに来る方はいる)

A: 外国人の80%がマンションに居住しており、個人宅の日本人との接点は少ない上、街の防犯などの考え方や仕組み作りは難しい。個々の方々が良いひとだが、まとまって何かすることは難しいように感じる。

Q: なぜ歌舞伎町の「まちづくり」なのか？(清水先生への質問)

A: ポテンシャルが高いため。良い人も悪い人もいるが、潜在的に人が集まる場所である。

将来的に色々な文化を持つ人が多い地域。そうすると、衣食住に特徴が地域に出る。また街に蓄積した文化が多くある。形にすることが抵抗感なくできることが「歌舞伎町」の既存イメージにとらわれず神社を円の中心にして何ができるか、と考えた。このきっかけ作りの場に今回のイベントを企画した。何をするのか、何ができるかは、これから。何か手伝いをさせて頂きたい。しかし人が出会うことは、本当に貴重だと思った。



「まちづくりトーク」の内容集(3/3)



意見:昭和30年代に、他県からここに来た。地元の人が怖かった思い出がある。いつも遠目に見ていた。今はゴルフを通じて韓国の方々と友人になった。

意見:既に一生懸命このような活動をしている人がいる。一丁目周辺でジャズ(スカラ座、名曲喫茶)が盛んで、今音楽を改めて発信している。しかし会場がなく、区役所前などで実施している。WAの学校と今後一緒に活動ができれば良いと思った。また小泉八雲など文化人は多いので歴史文化も取り入れたらと思う。

意見:文化と一言で言っても、外国文化・風俗・和など多様である。そんな中で古き良き施設(コマ劇場や映画館)が閉鎖している。何とかしたい。昔ながらの特色ある映画館がなくなった。

意見:いま60代の方が、一番新宿で遊んでいたのに、今は戻ってきて遊んでいない。何故か……?
→今後定期的に「寄席」を開催すれば、必ず来たくなる!からこの活動はスタートした!

意見:任意団体を作って活動しているが、今回羨ましいことは若い人が集まったこと。なかなか個の考えでまとまらないことが悩み。今回韓国の方も参加頂けたらもっと良かったと思う。杉並区も「地域の良いもの」を再発掘している。目指すは杉並検定・杉並地域大学(杉並区まちづくり課)

意見:過去転勤を経験した際、子どもと一緒に受け入れてもらえるかを大変心配したが、子どもの習い事活動を通じて、「手伝って」と声を掛けて頂いたことで、地元の方との交流が出来、転勤先がふるさとになった。“声がけ”は外部から来る人にとって嬉しいと体験した。

意見:神社に興味がある。もっと鬼王神社もPRした方が良い。昔の良さを復活させて欲しい。

写真集

